出会いとコラボレーション

「余白のためのショールームVer.」1968年

瀧口修造
阿部展也
斎藤義重
実験工房
グラフィック集団

大辻清司の写真

OTSUJI KIYOJI Photographs as Collabollations

主催=渋谷区立松濤美術館　協力=写真実験室の会

2007|6.5火–7.16月祝

休館日 6月11日[月]・18日[月]・25日[月]・7月2日[月]・9日[月]
開館時間 午前9時—午後5時（入館は午後4時30分まで）

◎本展カタログ「大辻清司の写真　出会いとコラボレーション」(2500円)はフィルムアート社刊行予定
◎大辻清司作品出品 関連展覧会「〈写真〉見えるもの／見えないもの」(東京藝術大学大学美術館陳列館) 5月29日[火]—6月17日[日]　「APNと実験工房展」(仮称)(Fuji Xerox Art Space) 7月21日[土]—9月30日[日]

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

渋谷区松濤2-14-14　TEL 03-3465-9421　JR渋谷駅下車徒歩15分　京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分　http://www.city.shibuya.tokyo.jp/
入館料 一般300[240]円, 小中学生100[80]円 ※[　]内は10人以上の団体料金／60歳以上の方および障害者の方は無料／土曜日は小中学生無料

みる つくる 語る——写真というメディアをめぐって

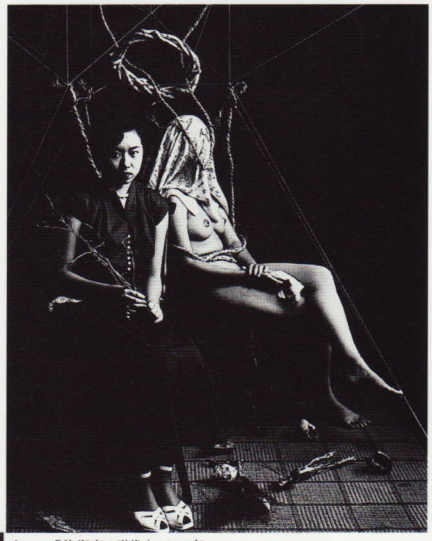
「廊下にあった焼こげの穴」1975年

大辻清司（1923—2001）は、戦後まもない1949年から写真作品の発表を始めました。斎藤義重、阿部展也、瀧口修造ら戦前からの前衛美術家・批評家との出会いをとおして実験的な制作を続け、「実験工房」、「グラフィック集団」の活動に参加するなど、前衛美術と常に関わりながら、写真というメディアへの思考を深めた作家です。

同時に美術ジャーナリズムの第一線で仕事を続け、すぐれた記録を残しています。また、桑沢デザイン研究所、東京造形大学、筑波大学、九州産業大学などで教鞭をとり、若い世代の写真家たちを育て影響を与えただけでなく、彼らの作品への論評を通して、あたらしい写真観を提示した仕事も見逃せません。大辻の数々の写真評論は『写真ノート』（美術出版社刊、1989年）にまとめられています。

こうした多方面にわたる大辻の仕事は、写真を使って何が可能かの実験であり、すぐれて現代的な地点に達したものではないでしょうか。

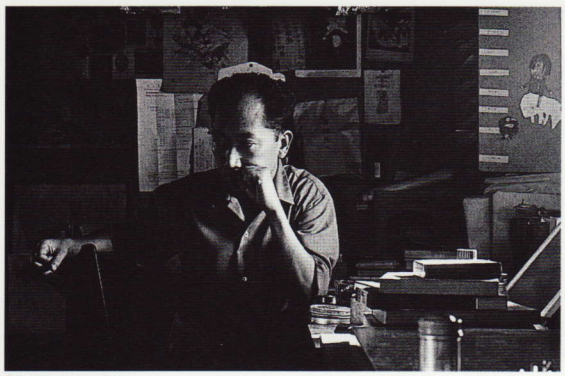
本展では、長く渋谷区に在住した大辻清司が、様々な出会いとコラボレーションから生み出した仕事を回顧し、多面的な活動を紹介します。写真の多様な機能と魅力を感じていただき、大辻清司が残した現代写真への豊かな示唆を受け取っていただく機会となります。



上——「美術家の肖像」1950年
下——「日が暮れる」1975年

◎講演会
谷川俊太郎詩人「大辻さんの椅子」6.23［土］14:00

◎美術映画会
大辻清司「上原2丁目」（1973年）ほか 6.10［日］・7.15［日］14:00



「自写像」1960年代

◎ギャラリートーク　6月6日［水］・7月4日［水］
14:00（担当学芸員）

◎美術相談　6月17日［日］14:00
講師＝大和屋巌（水彩画）

7月16日［月祝］14:00
講師＝遠藤原三（油彩画）

◎次回展　「景徳鎮 千年展」
7月31日—9月17日

渋谷駅下車徒歩15分／京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分